

戦後75年

福岡にあった戦争

中止の

「子ども平和学習
バスツアー」を再現!

戦後75年を節目に5月と6月に企画した「子ども平和学習バスツアー」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。この企画で伝えられなかったのは「福岡にも戦争があった」という過去の事実。ツアーで訪れるはずだった戦争遺跡(戦跡)を巡ります。

福岡市

あの場所も焼け野原に

福岡市は1945年6月19日夜、米軍爆撃機B29による焼夷弾攻撃に遭い、約2時間にわたる空襲で福岡の街は焦土と化しました。これが、被災戸数約1万3千戸、死者・行方不明者1146人を出した「福岡大空襲」です。焼け残った中央区天神地区の百貨店から海まで見渡せるほど、市中心部は一面の焼け野原となりました。また、博多港は国内最大の引揚港で、港は復員した兵士で連日あふれかえっていました。



岩田屋から天神1丁目付近を撮影した戦後の写真。焼け野原が続く。



戦後の中洲。右手に見えるのが旧玉屋(現・ゲイツ)。

<福岡市の戦跡・資料館>

- 旧十五銀行福岡支店跡(博多区の現・博多座近辺)
- 資料展「引揚港・博多」(中央区のふくふくプラザ)
- 鳥飼八幡宮 息吹の大銀杏(中央区) など

北九州市

各所に残る戦跡

爆撃機B29が初めて日本本土に飛来してきたのは1944年6月16日、北九州市の上空でした。当時国内最大の製鉄施設を持つ八幡製鉄所が標的とされました。終戦間際の1945年8月8日、再び「B29」が北九州・八幡に来襲。大量の焼夷弾が住宅街に投下され、25000人を超す死傷者を出し、1回の空襲の犠牲者が

としては、九州では長崎の原爆に次いで大きいものでした。当時、日本の重工業の中核であり、軍事物資の生産機能を果たした北九州市は、八幡をはじめ市内全域で被害を受けており、各所にある記念碑などが戦争の爪痕を伝えてくれます。



若松区の港湾に戦後、防波堤として旧日本海軍の駆逐艦が沈められました。現在も「軍艦防波堤」と呼ばれ、その姿を残す。



200万人を越す将兵が海外戦線へと出征した門司港。そのうち100万人は生きて故国の地を踏むことはなかった(写真はエフコープのフィールドワークの様子)。

<北九州市と周辺の戦跡>

- 原爆犠牲者慰霊平和祈念碑(小倉北区の勝山公園内)
- 朝鮮人遭難者慰霊碑(若松区の小田山霊園内)
- 十字架の塔(水巻町) など

大牟田市



焼夷弾による火災にも耐えた
大牟田市庁舎本館
(写真右、国登録有形文化財)。
「焼け野原の中にそびえた庁舎は
市民の復興のシンボルでした」
と話す藤木さん(撮影協力:ひまわりビル)。

くらしを簡単に奪った空襲

「こうして遺物が残るほんの75年
前に、今と全く違う社会や生活があっ
たんですよ」。「大牟田の空襲を記録
する会」の藤木雄二ふじきゆうじさんはそう話し
て、機銃掃射の弾痕が残る宮浦公園
墓地の墓石に手を合わせました。

炭鉱を中心に工業が発展し、人口
が多かった大牟田市は太平洋戦争末
期、6回にわたる米軍の空襲に遭いま
した。市街地は広範囲が焼け野原に
なり、死者は1300人以上といわ
れています。

終戦直前の8月7日には、爆撃機
など41機が工場地域へ向けて爆弾攻
撃し、300人以上の犠牲者が出た
といわれています。そのうち100人
以上は、地上からの迎撃を受けた爆
撃機が、搭載していた爆弾20数発と
ともに同市藤田町の住宅

街に墜落した被害によるもの。空襲が昼間だったため、
犠牲者の大半は女性や子ども、外国人労働者でした。
神社境内に立つ慰霊碑
を前に、藤木さんは「戦争
は戦う者だけでなく、外国人
労働者など多くの一般市民
の人生を狂わせ、簡単に命
を奪ってしまう。古くない
時代にそんなことが実際に
起きた。それを知ってほしい
ですね」と話していました。



上の写真とほぼ同じ場所(市役所北側)の終戦直後の写真。空襲の爪痕が多く残る。

8月7日の爆撃で爆弾が近くに落ち、
折れて吹き飛んだという高さ約3mの
地藏菩薩像。膝元に継ぎ目が残る。



藤田町被爆戦没者の碑。
石碑に刻まれた犠牲者の中には1歳や2歳の乳幼児も。
そして「米軍飛行兵数名」とも刻まれている。

<大牟田市の戦跡>

- 宮浦公園の高射砲陣地跡
- 普光寺公園の大牟田空襲の碑
- 乙宮神社鳥居の弾痕 など

小郡市・大刀洗町 朝倉市・筑前町



<朝倉市>

頓田の森に今も大きくそびえる木々。
現在は公園として整備されている。

多くの児童も犠牲に

1945年3月27日、米軍爆撃機B29が旧陸軍大刀洗飛行場を狙った空襲で、集団下校中の児童が避難し、一度に31人が爆死したのが「頓田の森」(朝倉市)です。「変わり果てたわが子を迎えにくる親の気持ちってわかる?」と、「大刀洗空襲を語りつぐ会」の石川由美子さんは小中学生とこの森に来ると尋ねます。「そう聞くとね、子どもたちは悲惨さを感じ取って下を向いてしまいます。ここはそういうことを伝えてくれる場所なんです」。

無事だった方がいました。その方は「自分だけ生き残った」と気に病み、私たちと会うまで70年以上その過去を明かさなかつたんです。そんな心の傷を負わせたのも戦争なんです」と話していました。

当時、大刀洗町周辺は、東洋一といわれた同飛行場を中心に二大軍都として発展。そのため米軍の標的となり1945年3月、2度にわたる大空襲によって壊滅的な被害を受けました。多くの民間人を含む1万人とも2万人ともいわれる犠牲者を出し、今も多くの遺構がその悲劇を伝えています。

石川さんは頓田の森に残る巨木を見上げ、「実は集団下校から抜け出して、この森の近くの自宅まで帰つて



<小郡市>

児童3人を含む7人が爆撃の犠牲になった場所に建つ「立石平和の碑」。「今後悲劇を起こさないために、自分が何をしたらいいか考えて、とここで話すんです」と石川さん。

<2市2町の戦跡・資料館>

- 大刀洗平和記念館
- 大刀洗公園
(航空廠跡、菊池武光像弾痕跡)など



<筑前町>旧大刀洗北飛行場の滑走路だった道路。当時、滑走路を造るために多くの住民や小学生・旧制中学の学生、朝鮮人労働者が駆り出された。



<筑前町>飛行機を攻撃から守る掩体壕(えんたいごう)が現存。高さ約7m、幅約44mのコンクリート製で当時の軍事施設のスケール感を伝える。

被爆体験証言シナリオ集



これまで発行した被爆体験証言集の
朗読シナリオをまとめた冊子を発行しました。

平和の旅



毎年、広島や長崎、
知覧などへの旅を開催しています。

エフコープ平和展



博多駅や小倉駅などで戦争の悲惨さを
伝えるパネル展を開催しています。

被爆体験証言集



原爆を体験した方々に当時を聞き書きした
証言集を発行しています。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年度の活動は実施できない場合があります。

「未来の子どもたちがずっと『戦後生まれ』でありますように」
エフコープは**平和活動**に取り組んでいます。

エフコープは配達や店舗だけではなく、平和な社会や
くらしを求める活動も積極的に取り組んでいます。
下記の「平和活動募金」を活用し、さまざまな活動をしています。

募金方法

店舗 7月13日(月)～8月21日(金)まで募金箱を設置

共同購入 共同購入の注文書やインターネットで受け付け

注文書 7月3週～8月3週注文書 7月6日(月)～8月14日(金)提出

●1口100円 ●1口500円 ●1口1,000円
注文番号 **2820** 注文番号 **2839** 注文番号 **2840**

インターネット注文 7月6日(月)～8月15日(土)まで

平和活動募金にご協力ください



エフコープの平和活動は、
組合員のみなさんから寄せられる
「平和活動募金」により支えられています。
みなさんぜひご協力ください。

平和活動に関する
お問い合わせ

◎エフコープ組合員活動部 TEL:092-947-9003 【受付時間】9:00～17:00(月～金曜日)